

やってみよう！10秒自己紹介

宮崎県宮崎市立池内小学校 3年担任 水野 宗市

ホームページ：<http://www.mcnet.ed.jp/ikeuchi-s/h14/3-2/>

キーワード：表現力，交流，相手意識，テレビ会議，デジタルカメラ，CD

1. はじめに

2005年には、全ての普通教室にコンピュータが整備される。同時に、学校のインターネット接続も高速化し、それらを効果的に活用した様々な学習が展開される。インターネット等を効果的に活用した学習の一つとして「交流学习」があげられる。教室の中だけにとどまらず、クラスや学校の枠を越えて、生活環境等の異なる地域の子どもたちと交流しながら学習をすることで、学校の中だけではなかなか学び起こりえない学習が促進される。

これまで数々の交流学习を行ってきて、交流学习を円滑に進めるにあたって必要なポイントとして、子どもたちが相手意識をしっかりと持つということがあげられる。そこで、子どもたちが相手意識を持ち交流学习を進めていけるようにするには、教師がどのような仕掛けを行っていけばよいか・・・相手意識を持つ一つの方法として一人一人のことを知ってもらおうと10秒自己紹介を行うことにした。

2. 学習の流れ（全4時間）

学 習 活 動	教 師 の 支 援	時数
1 「10秒自己紹介（1）」 ～10秒自己紹介って何だろう	10秒自己紹介について説明し、情報を選択し相手に伝えるように考えさせる。 国語「自分のことを知らせよう」との関連を考慮する。 デジタルカメラの使い方を知る。	1
2 「10秒自己紹介（2）」 ～10秒自己紹介をつくろう	デジタルカメラを使って10秒自己紹介を協力しながら作成するよう支援する。 できるだけ子どもの活動を容認しながら、机間指導を行い個別指導を行う。	2
3 「10秒自己紹介（3）」 ～10秒自己紹介を見直そう	作成した10秒自己紹介をお互いに見合い、友達の発表の良さを見つけわかりやすい表現の方法などについて考える。 相手に伝えるためには、どんなことが必要か、どんなことに気をつけると相手にわかりやすいのかを整理し、今後の実践に役立てていくよう投げかける。	1

3. 実践のポイント

(1) 時間の指定

時間の概念について「10秒」とはどれぐらいなのか子どもたちは以外と実感していない。時間については算数の学習で行うものの、実際に話してどれぐらいとなると以外とわかっていないのである。10秒というのは「短い」というのが子どもたちの感覚であった。本実践を進めていくうちに自分の話し方でどれぐらいが「10秒」であるかがわかってきた。活動の中で、教室の秒針とにらめっこしながらの練習が続いた。10秒ということ意識して活動することはなかなかこれまでなかったようである。こういった体験を通して10秒というのが体感できたようである。自分の話し方でどれぐらいが10秒かということがわかれば、それをもとに分の単位などにも応用できると思う。また、文字数として10秒間をとらえることも可能だと思う。



(2) 情報教育の視点

10秒で自己紹介するために自分のどんなことを伝えるのかを決めることにした。まず、自分の伝えたいことをワークシ

ートにいろいろと書き出し、その中から一番伝えたい情報を選んでいくことにした。この作業こそが「情報活用の実践力」にあてはまる。まず、自分のことを見つめ直し伝えたいことを考える（情報の収集）。次に、その中からどのことを話すかを選ぶ（情報の選択）、伝えるためにどうすればよいか（表現）を考え、カメラに向かって話す（情報の発信）のである。情報活用の実践力を育成するための一連の動作がある。このような学習を繰り返し行っていくことこそが大事なことだと思う。自己紹介という身近なテーマであるため、情報の収集においても自分だけでなく友達や家族からの情報収集も行うことができる。本実践をもとにして、総合的な学習の時間などのテーマ追求学習などへの発展も望むことができる。本実践を学年当初に位置づけ、情報収集の方法や発信の仕方などを学び、その学び方を活かして様々な学習へ発展していくことにより、情報教育の実践力を高めることができると考える。

また、10秒自己紹介の作成についてはデジタルカメラの動画保存機能を活用した。デジタルカメラでも動画の保存が可能であるため、日常的に活用しているデジタルカメラを活用することで、子どもたちはその操作も覚えながら作成に取り組んでいった。

（3） 学校間交流の一環として

最初にも述べたが、交流学習を円滑に行っていくために思いついたのが本実践である。「10秒自己紹介」の目的は交流している学校の人たちに自分のことを伝えることにある。普段、直接会うことのできない交流校の友達に自分たちのことを知ってもらい、これからの交流をよりよいものにするからこそがねらいである。「10秒自己紹介を作成して自分のことを相手に伝えよう」という目的を持たせることで、子どもたちは相手を意識して自主的に活動に取り組んだ。「やらされる」活動ではなく「自分でやる」活動であった。作成した10秒自己紹介は、mpgファイルで保存し、CD-ROMに焼き付け交流校に送った。

このように、「10秒自己紹介」は単なる情報教育を推進するための活動ではなく、交流学習を推進する目的も兼ねており、「10秒自己紹介」を通して「交流学習」がさらに発展していくことになった。実際、本校で作成した「10秒自己紹介」を見ることにより、テレビ会議で「あ、くんた。」といった声が相手校の子どもたちより聞こえるようになった。さらに、相手校の子どもたちは自分たちも作ってみたいということになり、その後、交流相手校からも「10秒自己紹介」が送ってきた。その自己紹介を見ながら本校児童も「さんだ」と喜んでいった。その学校とは、年間週一回のテレビ会議を続けている。

（4） 見直すことの大切さ

本実践で、特に大事にしたいことは、活動計画の3「10秒自己紹介を見直そう」である。それぞれが作成した「10秒自己紹介」を校内LANサーバーに保存（mpgファイル）し、校内LANを活用してクラスみんなで自由にそれぞれの自己紹介を見合う時間を設定した。その際に、友達の自己紹介の中で「よい点」をさがすように視点を与えることにした。

自分が行った自己紹介と他の子どもたちのものとを比較させるために、まず自分の自己紹介を見ることにした。他の子どもたちの自己紹介を見ながら「くんのはとても言葉がはっきりしている」「さんはきちんとこちら（カメラ）を向いて話している」「大きく口が開いている」など、様々なことに気づく。これらは、「相手に話す」ときに重要なポイントである。それらを、体験しながら考えることができるのである。さらに、その「よい点」を見つけた後、自分の実践を振り返ると「もう一回取り直したいなあ」という言葉が子どもたちからでてきた。他の子どもたちの自己紹介を見ることにより、表現の仕方（話す早さ、口の開け方、目の向きなど）を中心にみつめ直していた。また、伝える内容についても、自分が考えた以外にまだまだいろいろな内容があるのだということにも気がついていったようである。この活動を通して、子どもたちは物事を見直すことの大切さに気がついた。自分の活動を見直す、振り返ることによってよりよいものができることを実感することができた。

4．成果と課題

（成果）

本実践を行うことにより「情報を収集し、選択し、表現し、発信する」という一連の作業を取り入れることができ、情報活用の実践力の向上につながった。

学校間交流と本実践とを結びつけることにより、目的意識が増し本実践への意欲も高まるとともに学校間交流に対する意欲も高まった。

実際の体験を通して、時間の感覚、話すときのポイント（口を大きく開ける、はっきりとしゃべる、相手の顔を見るなど）、見直すことの大切さなどを実感することができた。

（課題）

本実践を学習のどこに位置づけるか（教科との関連の中で実践するか、総合的な学習の時間の中に組み込むか）をはっきりとさせ、年間のカリキュラムを作成する必要があると感じた。

主な学習の流れ、各活動でのポイント、実施したワークシートなどを整理して、本実践をパッケージ化することにより、他の先生方にも手軽に活用していただけるようなものができるのではないかと考える。